

## 地域の歴史に目を向けて

看護学部看護学科助手 林孝平 (2020年10月14日)

私は読書をする習慣が残念ながらあまりない。そのような私でも、一度読み始めると止まらなくなってしまう本がある。郷土史や街道の話など史跡や歴史、文化に触れている本である。

私は元々、寺社仏閣など歴史に関する事や街歩きが好きな人間である。気分転換をしたいときには徒歩や自転車で周囲を散策する事がある。その時に何気なく通り過ぎているお寺や神社、石碑などが実は歴史的に深い価値が存在するものも少なくない。その歴史的価値については地域の歴史を記した本などを読むことで初めて知る事が出来る。普段何気なく通り過ぎていた地域が歴史的にも非常に重要な場所で昔の人々がどのように往来していたかなど想像力を働かせながら散策するとあっという間に時間が経っていく。これが癖になり、ふらっと書店や図書館に行った際には地域の歴史に関する本を読み、気になった地域に足を延ばすという事を繰り返している。

現在住んでいる秋田県は人口減少や世界一の高齢化率、将来的には都市の90%以上が消滅すると予測されるなど衰退の一途を辿っているように思える。しかし昔に目を向けると奈良時代から平安時代にかけて日本最北端に位置する律令国家の地域官庁である秋田城が置かれ、また江戸時代には北前船の寄港地や東北の大動脈の1つである羽州街道が整備されるなど国の重要機関が置かれていた歴史的価値が高い地域である。その他、山岳信仰で栄えた地域や神仏習合の祭りが開催されているなど独特の文化が受け継がれている地域が多くまだまだ興味深い地域が山ほどある。

私は地元の秋田に赴任するに伴い車という強力な移動手段を手に入れた。その為、時間があれば秋田県を飛び越えて東北各地に足を延ばす事が出来る。しかし今は新型コロナウイルス感染症により県外移動をしにくい環境である。それに加え、私は大学院も通っており思ったよりも自由に使える時間が少ない。(言い訳になってしまうが…)新型コロナウイルスと大学院が落ち着いた時は思う存分に各地の歴史に思いを寄せながら散策をしたいと思う。